

「アクアマリンふくしまサマースクール」



▲サマースクール summer school

アクアマリンふくしまのスクール活動第一弾「サマースクール」磯の生き物ウォッチング」が八月一〜三日の三日間開催されました。

今回のスクールは、ふくしまの海に親んでもらうことを目的に、①磯の生き物観察②施設内自由見学③バックヤードツアー④海藻しおり作りを行いました。対象は小学四年〜六年生。いわき、福島、会津、須賀川など県内各地から八十七名の小学生が参加しました。

開校式の後、バケツやスコップを手にした子供たちは、早速、いわきサンマリナに磯に出発です。始めは緊張していた子供たちも、観察が始まると、夢中になってヤドカリやイソガニをつかまえたり、潮だまりで、イシダタミガイやイソギンチャクなどを観察したりしていました。そして、いろいろな生き物を発見しては、大きな歓声をあげていました。観察後の子供たちの感想では「カニはすばしっこかった」「あんなに生き物がいるなんてびっくりした」などが挙げられていました。今まで何気なく見ていた磯にもたくさんの生き物たちが生活していることを知り、海で遊ぶ楽しみがまたひとつ増えたようです。

(学習交流課 佐藤 安岐子)

アカウミガメの卵



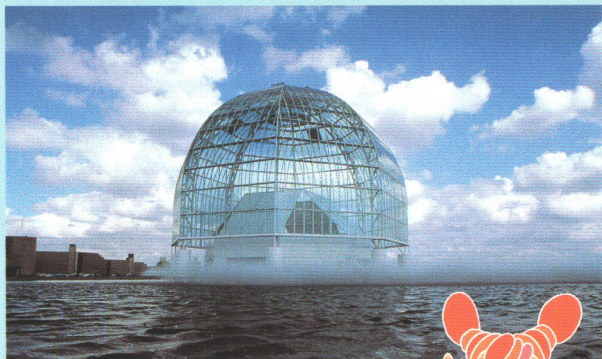
▲アカウミガメの卵の保護
rescue of loggerhead turtle's eggs

平成十二年八月六日、いわき市四倉の四倉海岸にてウミガメの卵を見つけたという地元の方からの通報がありました。発見者の方に案内していただき現場に到着し、砂をそと掘り返してみると、およそ四〇

cm程度の深さのところから直径約四cmのピンポン玉のようなアカウミガメの卵が百個出てきました。これから水温と気温が急激に下がることが、水没してしまうおそれがあったため、卵は水族館に持ち帰り人工孵化させることとしました。今までアカウミガメ産卵の正式な記録としては茨城県日立市が北限とされてきました。地元の方の話では、十年前までは勿来海岸に産卵にきていたということでしたが、最近は見なくなったということです。

(飼育展示課 平 治隆)

世界の水族館情報



▲印象的なガラスドーム
The glass dome, Tokyo Sea Life Park

東京都葛西臨海水族園 (Tokyo Sea Life Park)

東京駅からJR京葉線で葛西臨海公園駅下車。目の前には東京湾。と同時に目に飛び込んでくるガラスのドームがとても印象的。このドームがシンボルの東京都葛西臨海水族園は、「海と人間の交流の場」を目標に掲げ、1989年にオープンしました。

ドームに入り、エレベーターで海の中へ。今からどんな海中世界に招待されるのかワクワクしてきます。トンカチ頭のアカシモクザメ。そして巨大なクロマグロの群泳にはいきなり度肝を抜かれます。そう、この水族園は世界で初めてクロマグロの群泳展示に成功した水族館として有名です。巨大マグロの余韻を残しつつ、次のコーナーへ。すると今度は世界の海の展示。南極・北極からサンゴ礁の海まで、ありとあらゆる海の生き物たちが迎えてくれます。ここでは海域別に水槽が分かれており、生物の豊富さ・多様さと同時に、海の多様さをも実感させられます。

飼育の難しい深海生物や東京の海の生物も大変充実しています。ちなみに東京の海には、東京湾だけでなく伊豆七島から小笠原諸島まで含まれるのだそうです。ですから「東京の海」のコーナーには、江戸前のハゼからカラフルな熱帯魚まで様々な魚たちが展示されています。



▲クロマグロ Blue-fin tuna *Thunnus thynnus*

他には、ペンギンや海鳥、そうそう、忘れてならないのが屋外にある「水辺の自然」コーナー。溪流や池、せせらぎの間こえる流れ。少なくなった東京の自然が見事なまでに再現されています。

「水辺の自然」に来ると、この水族館が、「水族園」と名が付いたわけが納得できます。

東京都葛西臨海水族園とアクアマリンふくしまは、今年の8月21日に友好提携を結びました。技術や人・生物の交流、情報交換など相互協力を通しての両園館のさらなる発展が望まれます。

(飼育展示課 広田 祐二)